

江戸を熱くした強者どもの力動美。



勝川春亭 長州 越ヶ濱岩五郎 大判錦絵

# 相撲絵展

平成10年11月3日[火]-11月29日[日]

休館日・月曜日(月曜祝日の場合は、その翌日) / 開館時間・9:00-17:00(入場は16:30まで)

■会場 山口県立萩美術館・浦上記念館(1階展示室1、2) ■主催 山口県立萩美術館・浦上記念館  
■観覧料 一般 500円(400円) 学生 350円(250円) 高校生以下は無料。( )内は20名以上の団体割引料金。  
※ただし、3日-7日は教育・文化週間にあたり、一般・学生とも無料です。8日-15日の間は特別展開催のため、特別料金となります。

同時開催

《特別展》「なぞのタイムカプセル 封印された南宋陶磁展」10月10日(土)~11月15日(日)  
(シリーズ山東文物1)「神秘の王国【郟国王墓】展」2期 11月20日(金)~平成11年2月21日(日)



山口県立萩美術館・浦上記念館  
HAGI URAGAMI MUSEUM

〒758-0274山口県萩市宇賀2585-1 TEL.0838-24-2400 FAX.0838-24-2401



江戸を熱くした強者どもの力動美。

# 相撲絵展

相撲は江戸時代においても歌舞伎とともに人気の高い娯楽として江戸の人々に親しまれてきました。相撲を題材とした浮世絵の作品は初期浮世絵の時代にも素朴なものがみられますが、役者絵や美人画のようにジャンルとして確立されていったのは錦絵の時代になってからです。とくに天明以降、役者似顔絵を得意とした勝川派の絵師たちが谷風や小野川など人気力士の姿絵を描くようになって急激に増えていきます。春章、春好、春英らが、当時活躍していた力士たちの化粧回し姿や土俵入り、取組、外出時の姿を描いて、相撲絵の基本的な表現形式を創り出していたのです。そして、後期浮世絵の時代に入って、勝川派が創出した相撲絵の流れを受けつぎ、題材をさらに発展させ表現を典型化し、よりすっきりとわかりやすい作品にして量産していったのが、国貞、二代豊国、国芳、芳虎、二代国貞、国輝、国明など歌川派の絵師たちでした。

今展覧会では、相撲絵の種類やその流れを紹介するとともに、第六代横綱となった阿武松緑之助など秋藩お抱え力士、阿武松門系の力士、さらには説話や豪傑にまつわる相撲、怪童力士、戯画、美人画や役者絵、風景画に描かれた相撲風俗など、相撲絵関係の作品を一挙に64点展示いたします。江戸の人々の熱い思いから生まれた相撲絵をじっくりとご覧ください。

■キャラクタートーク 11月14日(土) 11時~12時



歌川国貞 河津股野赤沢山相撲ノ図 大判錦絵



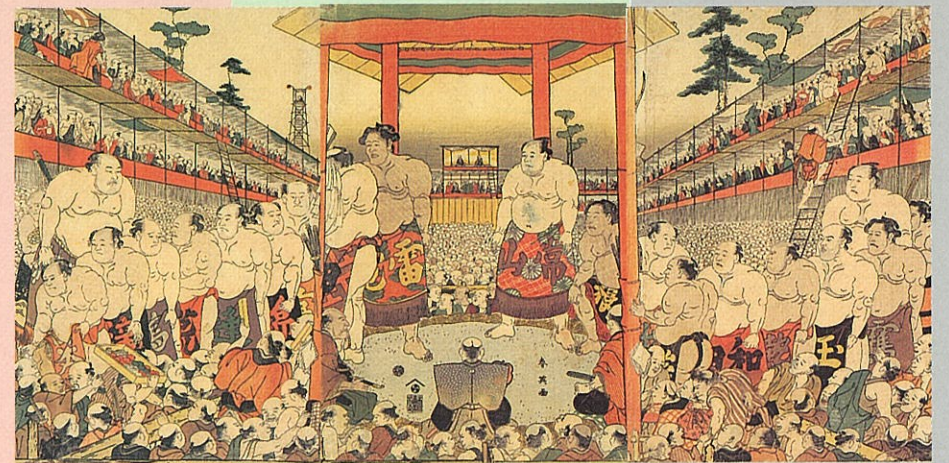
歌川国芳 鬼若力之助 鯉つかみ 大判錦絵



勝川春章 小野川喜三郎 谷風権之助 行司木村庄之助 横大々判錦絵



喜多川歌麿 松葉屋内瀬川 市川 大判錦絵



勝川春英 大相撲土俵入り 大判錦絵3枚続



■交通のご案内

- JR東萩駅: タクシー10分/徒歩30分
- JR小郡駅: バス70分(萩バスセンター下車、徒歩15分)
- 石見空港(島根県益田市): バス75分(萩バスセンター下車、徒歩15分)
- 中国自動車道: 小郡 I.C.・美祿 I.C.から各50分

■お問い合わせ

山口県立萩美術館・浦上記念館  
〒758-0074 山口県萩市平安古586-1 TEL0838-24-2400(代)



歌川国貞 小柳・猪王山取組図 大判錦絵3枚続